



いっぺいといっぱく

市長のまちづくりにかける想いを市長の語り口でお伝えます。  
市HP「によぜがもん」もぜひご覧ください。

Vol.87 とりえ とりえ

先日、発達障がい当事者だというフリーライターの記事を読みました。そのフリーライターは、学習障がいの特性が顕著で、繰り上げや繰り下げのある暗算やパーセントの計算がすぐにできないこと、速さや距離を求める計算は紙に書いて電卓を使わないとできないこと、算数があるから学校へは行きたくなかったけど親には理解してもらえなかったことなどが書かれていました。

このインタビュー記事を読んだ職員が、私にこう言いました。「私も、小さいころから計算が苦手で、今も数字を言われると頭の中にシャッターが下りて思考が停止します。そろばんを習っていたのに暗算は苦手で、100から7を引く認知症検査は絶対にやりたくないです」と言いました。別の職員は、「立体駐車場で車をどこに停めたか覚えられず、1時間くらい探した経験が何回もあります」と言いました。

職員の話聞いて、私は「人って面白いなあ。それぞれに『とりえ とりえ』があるんだなあ」と思いました。なぜなら、算数が苦手という職員は、文章を書くことが得意です。駐車場で迷子になる職員は、英語が得意です。難しい英単語は覚えられるのに、車を駐車した位置は覚えられないなんて面白いです。

誰にでも苦手なこと、できないこともあります。それぞれに「とりえ」、すなわち、長所があります。しかし、最近、相手の「とりえ」を見つけることができない人が増えていて、特に自分の子どもや職場の部下のことになると、相手のとりえを探して褒めることはしないで、できない部分ばかりを探し出して、「どうしてできないのか?」と責め立てることの方が多いように感じます。

私は、何かを始めようとするとき、自分で何でも完璧にできてしまう人ではない方が良いと思っています。なぜなら、自分の力で足りない部分があれば、人の力を借りることができるからです。「手伝ってほしい」「教えて欲しい」とお願いできるからです。自分一人で、何でも完璧にできてしまったら、仲間はできません。自分に足りない部分や苦手なことがあるからこそ、仲間ができるんだと思います。「自分は、何でもできる!」「何でも知っている!」という人は、そうしたチャンスを逃してしまっているかも知れません。

一人ひとりが、自分の弱さ、足りない部分を認め、周囲がそれを受け入れ、互いに支え合う社会こそ、真に豊かな社会だと私は思います。

ふれあい つながり みんなが楽しむまちづくり  
こんにちは! 西小学校区まちづくり協議会 検索 です。

議決書をご提出していただき  
ありがとうございました

◆第4回総会は書面議決方式で行いました。議案を掲載した広報誌「みんなの西まち」を5月上旬に西小学校区内の全世帯に配布し、多くの議決書の提出がありました。結果は、来月のこの紙面・協議会のホームページ・共生ステーションでお知らせいたします。



☎0561-64-5331 西小学校区共生ステーション  
nishi.no.machikyo@gmail.com

市が洞 イメージキャラクター  
市が洞小学校 小学校区まちづくり協議会  
<https://ichigahora.jimdofree.com/> (協議会HP)

■共生ステーションがより便利に!!  
私たちがいつでも、誰でも利用できる「共生ステーション」は、今年度からより利用しやすくなりました。  
○夜間利用ができるようになりました  
これまでの午後5時までの利用時間が延長され、前月15日までのお申し込みにより午後9時まで利用することができます。(緊急事態宣言解除後)  
○電話による利用の仮予約ができます。  
電話による利用状況の確認とともに仮予約ができます。(3日以内には本申し込みが必要)  
問合せ先:市が洞小学校区共生ステーション(0561-61-5914)

長久手市地域見守り安心ほっとライン

0561-63-5556

24時間  
365日受付

ご近所で「いつもと違う」と気づいたときはお電話ください



この広報紙は、植物油インキを使用しています。



この印刷製品は、環境に配慮した製材工場にて製造されています。